

平成 28 年度 環境センター業務概要

総務課

○庶務、会計、庁舎管理及び所管事務の総合調整

大気・水質課

○環境教育等事業

① 「環境月間（毎年 6 月）」行事の開催

事業名	日程	内容	参加者等
環境 公 開 セ ン タ ー	平成 28 年 6 月 6 日（月曜日） から	○水質や大気などの実験 ・身近な水質を五感でしらべてみよう	・鍋島小学校 ・開成小学校 計 208 名
	平成 28 年 6 月 10 日（金曜日） まで	○施設見学 大気環境常時監視システム、環境放射能常時監視システム、環境放射能測定車、太陽光発電装置、燃料電池車	

② 出前講座による環境教育

計 11 回、358 名に対して環境出前講座を実施した。

学校等		内容	参加者等
武雄市立東川登小学校	1 回	水生生物調査	4 年生 9 名
佐賀市立日新小学校	1 回	水質等調査	4 年生 84 名
伊万里市立大川内小学校	1 回	水質等調査	5 年生 22 名
武雄市立北方小学校	1 回	水質等調査	4 年生 67 名
みやき町立三根西小学校	2 回	水質等調査	4 年生 35 名
		酸性雨測定実験	4 年生 34 名
伊万里市立山代東小学校	1 回	水生生物調査	4 年生 25 名
武雄市立武内小学校	3 回	水質等調査	4 年生 24 名
		自動車の排ガス実験	5 年生 23 名
		酸性雨測定実験	6 年生 16 名
鹿島市立七浦小学校	1 回	自動車の排ガス実験	6 年生 19 名

③ 水生生物調査研修会の開催

各地域における環境教育の取り組みを支援するため、県保健福祉事務所及び市町職員等を対象として、水生生物調査の研修会を開催した。

開催日：平成 28 年 5 月 18 日

参加人数：30 名（うち市町職員 18 名）

④ 外部機関への講師派遣

外部機関等からの依頼に基づき講師等を派遣し、業務に係わるテーマについて講義等を行った。

外部機関		日程	講義内容	受講者
公益財団法人 佐賀県長寿社会 公益財団法人 佐賀県長寿社会 振興財団 「ゆめ佐賀大学」	唐津校 (唐津市りふれ)	平成 28 年 7 月 13 日	身近な環境問題 (大気汚染)	36 名
	佐賀校 (佐賀市アバンセ)	平成 28 年 9 月 29 日	身近な環境問題 (大気汚染)	58 名
	鹿島校 (鹿島市かたらい)	平成 28 年 10 月 27 日	身近な環境問題 (大気汚染)	33 名
	佐賀校 (佐賀市アバンセ)	平成 29 年 2 月 16 日	身近な環境問題 (大気汚染)	55 名
佐賀県立総合看護学院 助産学科		平成 29 年 1 月 18 日 及び 25 日 各 90 分	母子と生活環境	14 名
株式会社コミュニティジャーナル えびす FM (佐賀市エコプラザ)		平成 29 年 1 月 24 日	トークショー「佐賀 の大気は大丈夫？」	23 名

⑤ 研修・見学等の受け入れ

- ・インターンシップ（静岡薬科大学生 1 名）を受け入れ、大気水質分野における実務実践的な研修を行った。（平成 28 年 8 月 18 日）
- ・佐賀県立総合看護学院生（2 年生 40 名）の公衆衛生学の授業の一環としての視察に際し、業務の概要等の説明及び施設見学を行った。（平成 28 年 11 月 9 日）

○情報発信業務

佐賀県のホームページにより、環境センターの業務紹介や測定データ等の情報発信を行った。

<主な発信情報>

- ・環境センター案内（組織沿革、交通アクセス・所在地案内等）
- ・各課業務紹介（大気・水質課、環境理学課）
- ・環境学習情報（環境センター出前講座、施設見学・研修状況）
- ・データ集（大気環境調査結果、大気環境常時監視データ、大気環境中アスベスト濃度調査結果等）

○大気関連事業

大気汚染防止法に基づく大気の汚染状況の常時監視及び有害大気汚染物質の測定並びに一般環境のアスベスト調査等を行った。

また、全国環境研協議会第 6 次酸性雨共同調査や独立行政法人国立環境研究所との II 型共同研究等の調査研究にも参加した。

① 大気環境常時測定局による大気環境の測定

大気環境常時測定局（21 局）において、二酸化硫黄（SO₂）、窒素酸化物（NO_x）、一酸化炭素（CO）、光化学オキシダント（O_x）、非メタン炭化水素（NMHC）、浮遊粒子状物質（SPM）及び微小粒子状物質（PM_{2.5}）などの濃度を測定し、テレメータシステムにより監視している。

<大気環境常時測定局>

分類	測定局名	二酸化硫黄	一酸化窒素	二酸化窒素	窒素酸化物	一酸化炭素	オキシダント 光化学	非メタン 炭化水素	メタン	全炭化水素	浮遊粒子状 物質	微小粒子状 物質	風速 風向
		SO ₂	NO	NO ₂	NO _x	CO	O _x	NMHC	CH ₄	THC	SPM	PM 2.5	WD・ WS
一般環境測定局	1 佐賀	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	2 神埼	○	○	○	○						○	○	○
	3 三瀬	○	○	○	○		○				○	○	○
	4 多久	○	○	○	○		○				○	○	○
	5 鳥栖	○	○	○	○		○				○	○	○
	6 基山	○	○	○	○		○				○		○
	7 唐津	○	○	○	○		○				○	○	○
	8 竹木場	○	◎	◎	◎						○		○
	9 肥前 ^{*1}	◎	◎	◎	◎		○				◎	○	◎
	10 大坪	○	○	○	○		○				○	○	○
	11 山代	○	○	○	○						○		○
	12 南波多 ^{*1}	◎	◎	◎	◎						◎		◎
	13 大川 ^{*1}	◎	◎	◎	◎						◎		◎
	14 日南郷 ^{*1}	◎	◎	◎	◎						◎		◎
	15 西有田 ^{*1}	◎	◎	◎	◎		○				◎		◎
	16 武雄	○	○	○	○		○				○	○	○
	17 白石	○	○	○	○						○	○	○
	18 鹿島	○	○	○	○		○				○	○	○
	19 嬉野	○	○	○	○		○				○	○	○
自排局 ^{*2}	20 兵庫		○	○	○	○					○		
	21 曾根崎		○	○	○	○					○		

[○：県管理の測定項目 ◎：事業者（九州電力）管理の測定項目]

*1 九州電力管理の局舎

*2 自動車排気ガス測定局

② 有害大気汚染物質モニタリング

一般環境大気調査

○調査地点：佐賀市（佐賀局）、伊万里市（大坪局）の2地点

○調査時期：各地点毎に毎月1回（24時間採取）

○調査項目：22物質

・揮発性有機化合物（12物質）

アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、塩化メチル、クロロホルム、酸化エチレン、

- 1,2-ジクロロエタン、ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、トルエン、1,3-ブタジエン、ベンゼン
- ・アルデヒド類（2物質）
 - アセトアルデヒド、ホルムアルデヒド
- ・無機化合物（7物質）
 - クロム及び三価クロム化合物*1、六価クロム化合物*1、水銀及びその化合物、ニッケル化合物、ヒ素及びその化合物、ベリリウム及びその化合物、マンガン及びその化合物
 - (*1 クロム及びその化合物の全量として測定)
- ・多環芳香族炭化水素（1物質）
 - ベンゾ [a] ピレン

③ 大気環境中のアスベスト調査（一般環境実態調査）

- 調査地点：唐津市及び伊万里市の計2地点
- 調査時期：年2期
- 調査方法：4時間採取、連続3日間調査

④ PM_{2.5}成分分析

- 調査地点：佐賀市（佐賀局）
- 調査時期：年4期（春、夏、秋、冬）
- 調査方法：24時間採取、14日間/期
- 調査項目：43項目
 - ・質量濃度
 - ・イオン成分（8成分）
 - 陽イオン：ナトリウムイオン、アンモニウムイオン、カリウムイオン、マグネシウムイオン、カルシウムイオン
 - 陰イオン：塩化物イオン、硝酸イオン、硫酸イオン
 - ・無機元素成分（32成分）
 - ベリリウム、ナトリウム、マグネシウム、アルミニウム、カリウム、カルシウム、スカンジウム、チタン、バナジウム、クロム、マンガン、鉄、コバルト、ニッケル、銅、亜鉛、ヒ素、セレン、ルビジウム、モリブデン、カドミウム、アンチモン、セシウム、バリウム、ランタン、セリウム、サマリウム、ハフニウム、タンタル、タングステン、鉛、トリウム
 - ・炭素成分（2成分）
 - 有機炭素、元素状炭素

⑤ 化学物質環境実態調査（環境省委託調査）

ア 初期環境調査（試料採取のみ）

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」における指定化学物質の指定について検討が必要とされる物質、社会的要因から調査が必要とされる物質等の環境残留状況の把握を目的とし、県が試料採取を行い、国の指定分析機関において化学物質の調査を実施した。

- 調査地点：佐賀市（佐賀県環境センター）
- 調査時期：平成28年10月
- 調査方法：ローボリウムエアサンプラにより各24時間の3日間連続採取
- 調査項目：ジフェニルジスルファン、3,3'-ジメチルベンジジン、ヘキサメチレンジアミン

イ モニタリング調査（試料採取のみ）

POPs条約対象物質及び化学物質審査規制法第1、2種特定化学物質等の環境残留性が高く環境

基準等が設定されていない物質の環境実態を経年的に把握するため、県が試料採取を行い、国の指定分析機関において化学物質の調査を実施した。

○調査地点：佐賀市（佐賀県環境センター）

○調査時期：平成28年9月

○調査方法及び調査項目

ミドルボリウムエアサンプラにより7日間連続採取：POPs等15物質群

ローボリウムエアサンプラにより24時間の3日間連続採取：ヘキサクロロブタ-1,3,-ジエン

⑥ 精度管理

環境測定分析の精度の向上を図り、環境測定データの信頼性の確保に資するため、精度管理調査に参加した。

ア 酸性雨分析精度管理

○調査期間：平成28年10月

○調査項目：pH、EC、SO₄²⁻、NO₃⁻、Cl⁻、NH₄⁺、Ca²⁺、Mg²⁺、K⁺、Na⁺

イ 環境測定分析統一精度管理調査

平成28年度は大気試料なし。

⑦ 調査研究

ア 全国環境研協議会の酸性雨調査研究部会による第6次酸性雨共同調査（継続調査も含む。）

○調査地点：佐賀市（佐賀県環境センター）

○調査期間：平成28年4月～平成29年3月（1週間毎の採取）

○採取方法：自動雨水採取装置

○調査項目：pH、EC、SO₄²⁻、NO₃⁻、Cl⁻、NH₄⁺、Ca²⁺、Mg²⁺、K⁺、Na⁺

イ II型共同研究（独立行政法人国立環境研究所と地方環境研究所の共同研究）

II型共同研究テーマ「PM_{2.5}の環境基準超過をもたらす地域的/広域的汚染機構の解明（研究期間：平成28年度～平成30年度）」に参加している。汚染要因解析：輸送汚染グループに属し、高濃度汚染の要因解明に資することとする。

平成28年度：研究サブグループや管理等の研究体制を整備する。それぞれのグループで目的に見合った実行計画を作成する。

ウ 日韓海峡沿岸環境技術交流事業

日本及び韓国の地方自治体（日本側：福岡県、佐賀県、長崎県及び山口県 韓国側：釜山広域市、全羅南道、慶尚南道及び済州特別自治道）が環境問題に関して相互理解を深めるとともに環境保全に資することを目的として、平成7年度（山口県は平成12年度）から2年ごとにテーマを決めて共同事業を行っている。

○研究期間：平成28年4月～平成30年3月

○テーマ：大気中の揮発性有機化合物調査

○事業目的：日韓8県市道が共同で、大気中の揮発性有機化合物の調査を実施し、下記の事項等について、検討・解析・評価をすることにより、その結果を今後の課題解決のための基礎資料とする。

(1) VOC項目ごとのPRTRデータマッピング

(2) VOC項目の地点間相関の比較

(3) 地点別のVOC項目間相関の比較

(4) Benzene比による地域特性の把握（1,3-Butadiene / Benzeneなど）

(5) VOC項目と常時監視（自動測定網）データ等の相関比較

- (6) 過去数年の経年変化
- (7) 発生源解析

○水質関連事業

水質汚濁防止法、佐賀県環境の保全と創造に関する条例及び水質汚濁防止法第3条第3項の排水基準を定める条例等に基づき、工場・事業場の排出水の水質検査を行うとともに、地下水の異常水質等の調査を行った。

また、廃棄物処理場周辺の水質環境調査、魚へい死等の異常水質の原因調査、簡易水生生物調査等による環境教育などを行った。

また、独立行政法人国立環境研究所とのⅡ型共同研究「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ」（平成28年度～平成30年度）の情報収集に参加している。

① 地下水の水質監視

地下水の水質測定計画に基づき、概況調査により新たに発見された汚染について、その汚染範囲を確認するとともに汚染原因を究明するために、汚染井戸周辺地区調査を実施した。また、継続監視調査地区の汚染の広がりを見守るために、再度汚染井戸周辺地区調査を実施した。

調査地区	種類	調査時期	検体数	総検査数	検査項目
神崎市	汚染井戸周辺地区調査	5月	1	1	フッ素
神崎市	汚染井戸周辺地区調査	6月	182	182	フッ素
神崎市	汚染井戸周辺地区調査	8月	36	36	フッ素
唐津市	再度汚染井戸周辺地区調査	9月	11	77	塩化ビニルモノマー、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、トランス-1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン
神崎市	汚染井戸周辺地区調査	9月	52	52	フッ素
鳥栖市	再度汚染井戸周辺地区調査	9月	29	203	六価クロム、塩化ビニルモノマー、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、トランス-1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン
唐津市	再度汚染井戸周辺地区調査	10月	2	2	総水銀
鳥栖市	再度汚染井戸周辺地区調査	10月	1	1	六価クロム
鳥栖市	再度汚染井戸周辺地区調査	10月	12	84	六価クロム、塩化ビニルモノマー、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、トランス-1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン
計			326	638	[全 10項目]

② 工場・事業場等排出水の水質検査

水質汚濁防止法等に基づく特定事業場における排水基準遵守等を監視するため、年間計画に基づき、事業場等の排水水及び地下水の検査を実施した。

区分	検体数	総検査数	検査項目
保健福祉事務所から搬入	161	963	カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、塩化ビニルモノマー、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、 <i>trans</i> -1,2-ジクロロエチレン、 <i>trans</i> -1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、ほう素、ふっ素、アンモニア性窒素・亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素、ヘキサノール抽出物質、銅、亜鉛、溶解性鉄、溶解性マンガン、全クロム、窒素含有量、リン含有量、陰イオン界面活性剤、非イオン界面活性剤、トルエン、キシレン [全 38項目]

③ 廃棄物処理場等周辺環境調査

廃棄物の不法処分地周辺の水域等において、有害物質調査を実施した。

○調査対象：唐津市の湧水

○調査時期及び調査地点：7月（湧水3地点）、12月（湧水3地点）

○調査項目：PCB、1,1-ジクロロエチレン、ジクロロメタン、*trans*-1,2-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、テトラクロロエチレン

[全 13項目、総検査数 76]

④ 精度管理

環境測定分析の精度の向上を図り、環境測定データの信頼性の確保に資するため、環境測定分析統一精度管理調査に参加した。

○調査期間：平成 28 年 8 月

○調査項目：(水質試料) ジクロロメタン、トリクロロエチレン

⑤ 檜原湿原水質環境調査（有明海再生・自然環境課依頼）

県の自然環境保全地域に指定されている檜原湿原及び湿原への流入小河川について、水質調査を実施した。

○調査地点：湿原内の調査地点（4地点）及び湿原への流入河川（3地点）

○調査時期：5月、7月、10月、1月

○調査項目：pH、DO、COD、BOD、SS、全窒素、全リン、溶解性鉄、電気伝導率

[全 9項目、総検査数 252]

⑥ 佐賀市委託調査

佐賀市（上下水道事業管理者）の委託により、水質汚濁調査を実施した。

○調査対象：本庄江川及び本庄江川沖の有明海海域

○調査時期及び調査回数：6～7月、11月における大潮及び小潮時の満潮及び中潮時

○調査項目：陰イオン界面活性剤、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、アンモニア性窒素、全窒素、

リン酸態リン、全リン

[調査地点 7、全 56 検体、全 7 項目、総検査数 392]

⑦ 化学物質環境実態調査（環境省委託調査）

ア 詳細環境調査（試料採取のみ）

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」における特定化学物質及び監視化学物質、環境リスク初期評価を 実施すべき物質等の環境残留状況の把握を目的とし、県が試料採取を行い、国の指定分析機関において化学物質の調査を実施した。

- 調査地点：伊万里湾内（水質 1 検体）
- 調査時期：10 月
- 調査項目：エチルベンゼン、キシレン類

イ モニタリング調査（試料採取のみ）

POPs 条約対象物質及び化学物質審査規制法第 1,2 種特定化学物質等の環境実態を経年的に把握するため、県が試料採取を行い、国の指定分析機関において化学物質の調査を実施した。

- 調査地点：伊万里湾内（水質 1 検体及び底質 3 検体）
- 調査時期：10 月
- 調査項目：
 - （水質）POPs 等 6 物質群
 - （底質）POPs 等 9 物質群

⑧ 異常水質・苦情処理等による環境調査

苦情への対応のため、周辺の環境汚染状況の調査を実施した。魚へい死や油流出等の事案発生時には原因究明等の調査を実施するが、平成 28 年度は依頼なし。農薬分析については、衛生薬業センターとも連携して行っているが、平成 28 年度は実績なし。

- ・苦情によるもの：2 件（ため池の水 2 検体）

- 調査項目：カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、セレン、総水銀、アルキル水銀、1,1-ジクロロエチレン、ジクロロメタン、ジス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、テトラクロロエチレン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ほう素、ふっ素、アンモニア性窒素・亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素、窒素含有量、燐含有量

[全 2 検体、全 27 項目、総検査数 27]

⑨ 調査研究

- ・Ⅱ型共同研究（独立行政法人国立環境研究所と地方環境研究所等の共同研究）

Ⅱ型共同研究テーマ「WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ」（平成 28 年度～平成 30 年度）に参加している。

WET 試験は、工場排水などの環境に与える負荷を生き物を使った新しい基準で判断する排水の安全性評価試験、生体毒性試験である。この共同研究に全国から 16 の分析機関が参加している。

初年度は河川水中の WET 試験の実施が計画されており、採水は 4 機関、分析は 6 分析機関が担当し、魚、ミジンコ、藻類の 3 種類の試験を行う。本県は本年度、情報収集に参加している。

環境理学課

① 玄海原子力発電所周辺環境放射能調査

玄海原子力発電所周辺の住民の安全確保及び環境保全を図るため、環境放射能調査計画に基づき調査を行った。その状況は、次のとおりである。

ア 空間線量の測定

線量率及び積算線量の測定を行った。

○線量率

・モニタリングポスト

市町名	地点	備考
唐津市	19	・連続測定 ・データは、テレメータシステムで環境センターへ転送し、常時監視
玄海町	8 (4)	
伊万里市	3	
計	30 (4)	

※()は九電設置局で内数

・モニタリングカー

発電所周辺の主要道路において、走行サーベイを実施した。

走行サーベイルート上の測定件数：発電所から距離 5～10km 圏内 3 ルート

発電所から距離 10～30km 圏内 5 ルート

○積算線量

市町名	地点	測定数	備考
唐津市	20	80	・3ヶ月間の測定 ・佐賀市、伊万里市は対照地点
玄海町	5	20	
佐賀市	1	4	
伊万里市	1	4	
計	27	108	

イ 環境試料中放射能調査

環境試料中の放射能分析を行った。

・核種分析

測定項目 試料区分	核種分析数分				
	機器分析 (γ線分析)			放射化分析	
	コバルト -60	セシウム -137	ヨウ素 -131	ストロンチウム -90	トリチウム
海産生物	12	12	4	6	—
農畜産物・植物	22	22	14	3	—
海水	8	8	8	4	8
陸水	7	7	7	1	7
海底土	8	8	—	4	—
陸土	4	4	—	1	—
計	61	61	33	19	15

・ヨウ素モニタによる分析 浮遊じん中の放射性ヨウ素測定：36 件

ウ 県と九州電力による測定値確認調査 計：47 件

○積算線量 : 6 地点・24 件

○環境試料中放射能調査：コバルト-60：6件、セシウム-137：6件、ヨウ素-131：4件、ストロンチウム-90：6件、トリチウム：1件

② 放射能分析確認調査（(財)日本分析センターとの精度管理）

空間放射線測定及び環境放射能の分析結果について(財)日本分析センターと比較確認を行った。その状況(検査数又は地点数)は、次のとおりである。

分析測定項目		区分	試料分割法*1	標準試料法*2	分析法
核種分析	セシウム-137等		18	81	γ線スペクトロメトリ
	トリチウム		2	2	放射化分析
	ストロンチウム-90		1	2	放射化分析
積算線量			1	2	ガラス線量計
計			22	87	

*1 試料分割法 県が採取した試料又は同一地点における、県と(財)日本分析センターで分析・測定した結果を比較する方法

*2 標準試料法 (財)日本分析センターで、一定量の放射性物質の添加又は放射線の照射をした検体について、県と(財)日本分析センターで分析・測定した結果を比較する方法

③ 環境放射能水準調査（委託調査）

原子力規制庁からの委託事業として環境放射能調査を行った。その状況は、次のとおりである。

(1) 水準調査

ア 空間放射線量率の測定

モニタリングポスト

市町名	地点	備考
佐賀市	1	・連続測定 ・リアルタイムデータを、原子力規制庁へ伝送
唐津市	1	
鳥栖市	1	
多久市	1	
武雄市	1	
嬉野市	1	
計	6	

イ 環境試料中の放射能の調査（全8放射能）

試料区分	採取法	調査地点	測定数
降水	降水毎定時採水	佐賀市	90

ウ 環境試料中の放射能の調査（機器分析（γ線分析））

試料区分	試料名又は採取法	調査地点	検体数
大気浮遊じん	ハイポリウムエアサンプラで採取	佐賀市	4
降下物	大型水盤で月1回採取	佐賀市	12
陸水	上水・蛇口水	佐賀市	1
土壌	0～5cm層土、5～10cm層土	佐賀市	2
農畜産物	精米、ほうれん草、大根、牛乳	佐賀市	4

エ 放射性ヨウ素の測定

牛乳（佐賀市）のヨウ素-131の分析：1件

オ 核種分析用試料の送付

核種分析用試料を(財)日本分析センターに送付：23 試料

(2) モニタリング強化調査

平成 28 年 9 月に北朝鮮の地下核実験が実施されたことから、原子力規制庁の指示により、モニタリング強化調査を実施した。

試料区分	試料名又は採取法	調査地点	検体数
降下物	雨水採取装置で日 1 回採取	佐賀市	6
大気浮遊じん	ハイボリウムエアサンプラで日 1 回採取	佐賀市	6

④ その他

ア 緊急時モニタリング訓練

原子力防災訓練において緊急時モニタリング訓練を実施した。(平成 28 年 10 月 10 日)

昨年の訓練後のアンケートを踏まえ、事前説明会については、説明内容の改善、環境センター職員への個別説明を行った。また、事前説明会とは別に、モニタリング要員の研修会を実施した。

訓練当日の各班の人数配分、各員の業務分担を見直し、円滑な進行を図った他、走行サーベイルート等の見直しを行った。

イ 簡易型電子線量計の整備

平成 27 年度末に緊急時モニタリング資機材として、玄海原子力発電所から 5km～ 30km の範囲内に簡易型電子線量計を 32 カ所に設置し、平成 28 年度から運用を開始した。

ウ モニタリングポストの気象観測計の増設

モニタリングポストの気象観測計未設置 3 局について、装置の増設を行った。

エ モニタリングポスト測定装置ラックの耐震補強工事

平成 12 年度以前に設置したモニタリングポスト 13 局の局舎内に設置している機器のラックについて、耐震補強工事を行った。